



### 十九年度定期総会開催

四月十三日(金)よこすか平安閣において平成十九年度定期総会が開催された。

司会の土井理事による開会の辞、黙祷のあと、佀会長の議事進行により、①十八年度の事業及び収支決算の報告 ②新役員の選任 ③十九年度事業計画及び予算について審議が行われ、いずれも賛成多数で承認された。

これらの中で、昨年度は三十三名の新入会員があり、三月末現在での会員数が六百七十八名であること、事業を計画どおり推進していることが報告された。また、芹川理事長の後任として本多理事が新理事長に就任する等の新体制についても異議なく承認された。



一般討議・提案では、天沼会員から靖国神社関連で「国として殉職隊員等をいかに祀っていくか」という問題について、水交會として見解を固めていくべきことが提起され、芹川理事長から「水交會全体の問題であることから、支部長会議で会長から発表する」との回答がなされた。

発行 平成十九年七月十八日  
編集 横須賀水交會事務局

引き続き、理事長から新水交會社屋更新募金について、三月末で計画の約1/3が達成されていることが紹介された。鶴田理事からは、葉山御用邸での奉仕活動及び少年少女をヨットで大自然に触れさせるボランティア活動への有志の参加呼びかけがあった。

その後、退任する四名の理事のうち出席の斉藤芳雄理事に対する感謝状の贈呈、昨年度中の新入会員と叙勲受賞された会員、並びに有志会員による木下会員に対する支援活動状況の紹介が行われ、円滑に総会を終了した。

休憩の後、元イラク先遣隊長、復興業務支援隊 初代隊長 佐藤正久氏を講師に迎え「イラクサマワに赴いて想う事」と題した講演が行われた。講演の中で、佐藤氏がイラクに赴くに当たり「隊員を一人残らず生きて帰らせる」ことを最大の目標と定め、一般の報道からは伺い知ることのできない厳しい現地環境の中で、すべてがゼロの状態から、

### 横須賀水交會主要行事予定

十月までの主要行事予定は、次のとおりです。多くの会員諸兄の参加をお願いします。

#### 1 理事会

(1) 期日 八月四日(土)

(2) 場所 横監(細部未定)

#### 2 少年海洋学校

(1) 期日 八月九日(木)

(2) 場所 横須賀教育隊

#### 3 防衛諸団体合同夏期防衛講座

(1) 期日 八月二十四日(金)

(2) 講話 一五三〇〇〜一七三〇

(3) 納涼懇親会 一七四五〜一九〇〇

(4) 場所 記念艦「三笠」

(5) 講師 防衛研究所図書館長 兼主任研究官 武貞 秀士氏

(6) 演題 「朝鮮半島はどこへ行く」(仮題)

#### 4 部隊研修

十月上旬(計画)

#### 5 第十五回ゴルフ大会

(1) 期日 十月二十四日(水)

(2) 場所 ザ・鹿野山CC



特に「住民の信頼を獲得する」ことに全力を注ぎ、人のネットワークを築いて情報の入手と発信に努め、自ら「信頼と安全の海を創造し拡大した」ことが語られた。また、そうする上で「日本の歴史と先輩の築いた基盤」（日露戦争の勝利、対米戦争敗戦後の復興と世界第二の経済大国への発展、八〇年代半ば頃まで現地に多く駐在していた企業／先輩の実績）が大きな役割を果たしたこと等について、三回の国際貢献活動（カンボジア、ゴラン高原、イラク）に初代指揮官として赴いた経験を有する佐藤氏ならではの貴重な

お話を聞くことができた。さらに、イラクには一生懸命働こうとする目の輝いた若者が一杯おり、日本のような「平和、安全、繁栄」はないものの「絆」を持っていることに感動し、「何とかイラクの人々を支援してあげたい」と考えるところにも、次世代のために一生懸命働いた昔の日本人が元々持っていた「絆」を再生し、「気概を持った日本を創る」ことを決意して、新たな道に歩を進めつつあることを力強く披露された。本講演には会員のほかにも陸上自衛隊を含め現役の諸官が多数参加されたが、参加者は皆真剣に聞き入っていた。

講演終了後会場を移し、一般来賓及び香田自衛艦隊司令官、別所少年工学校校長を始めとする現役部隊指揮官、前任伍長等、多数の来賓の臨席を得て、懇親会が開催された。佃会長の「水交会の最大の目的は海上自衛隊の支援にあり、現役のできないことを推進する」として本年度の目標を掲げた挨拶に続いて、香田司令官から新型イージス艦「あたご」や新DDHなど最新装備が着々と整備されつつあること及び本年

度に抜本的な運用体制の改革が計画されていることの紹介と横須賀水交会への熱い期待のこもった祝辞があった。そして、来賓紹介、祝電披露、杉本潜水艦隊司令官の音頭による乾杯を経て懇談に入った。



途中、少し遅れて臨席された蒲谷横須賀市長から、防衛省への移行を祝福するとともに、海上自衛隊及び横須賀水交会との信頼関係の上に立って益々市の発展に努めていく所存であり、キティホーク後継空母問題についても適切に措置しているとの祝辞があった。

会場のあちこちに再会と交流の輪が広がったが、小澤横須賀地方総監部幕僚長の発声による万歳三唱をもって名残惜しさを残しながら散会した。



「司令官挨拶」

自衛艦隊司令官 香田 洋二



横須賀水交會の皆様には、平素から自衛艦隊の諸活動に対し、格別のご支援、ご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、我が国を取り巻く安全保障環境を概観しますと、依然として、世界各地でテロが頻発するとともに、大量破壊兵器、弾道ミサイルの移転、拡散などの脅威も現実のものとなっており、特に、核を保有する朝鮮半島の出現は、東アジアの戦略環境を一変するものと言えます。今後の事態の推移は、誰もが予想できない方向へ向かう可能性があります。海を経て来るであろう脅威に対し、第一線の備えたる自衛艦隊の精強性と即応性が今以上に問われ

るものと考えます。国際社会のあらゆるレベルにおいて、これらの脅威の排除に向けた取り組みが継続されていきますが、今後ともこのような不透明な情勢が続くものと考えられます。

このような情勢下において、テロ対策特別措置法に基づくインド洋における協力支援活動は、当初から長期化することは予想されていたものの、既に六年目を迎えており、艦艇への給油支援回数も七百五十回を超えました。この協力支援活動については、テロとの戦いを続けている各国から高い評価を得ており、本活動への継続的な参加と個々の任務の着実な遂行が、国際社会の平和と安定への貢献は元より、我が国の安全保障にもいかに寄与しているかを再認識しているところであります。

国内においては、年初に防衛省に移行し、インド洋における協力支援活動等は本来任務とされました。また、運用開始から二年目を迎えている統合運用については、新たな体制を確かなものとするまでには、まだまだ各自衛隊が相互の理解と信頼

をより深める必要があります。着実な努力を積み重ねていかなければなりません。

私は、自衛艦隊司令官就任以来、「精強で即応性の高い自衛艦隊」及び「統合と日米共同の深化」の実現に向けて、「やせ我慢」を勤務方針としております。自衛隊の果たすべき役割は、安全保障環境の変化と国民の関心の高まりを受けて、拡大の一途にあります。その一方で、これを支えるべき資源には限りがある状況は、今後とも継続することが予想されます。自衛艦隊は、このような情勢の中で国民の負託に答えるため、武人(もののみ)としてのやせ我慢の精神をもって、事態に即応し、的確に任務を遂行し得る精強な部隊の錬成に努めていく所存であります。

さらに、海上自衛隊は、本年度末に創設以来最大の組織改編が控えております。自衛艦隊に限らず海上自衛隊は、変革に向けての過渡期の真っただ中にありますが、伝統ある自衛艦隊の歴史に新たな前進の一頁を加えるべく、隊員一丸となつてこの改革を成し遂げる所存であります。

ります。

横須賀水交會の皆様には、新たな一步を踏み出そうとしている自衛艦隊に対し、今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の今後益々のご健勝とご多幸を祈念致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

木下市議会議員誕生

市議選挙を振り返って

横須賀水交會副会長 長崎嘉徳



今年十二年に一回来る選挙の当たり年である。すでに終わった前半戦の全国地方統一選挙と七月二十九日投票日である後半戦の参議院議員選挙である。

横須賀地区では前半戦の地方統一選挙を皮切りに県知事、県議員選挙、二週間遅れて四月二十二日投票の市議会議員選挙が行われた。

横須賀水交會有志は会の目的の一つに掲げられている海上自衛隊の支援で国政、地方政治の面から大いに横須賀市在籍の海自をバックアップすると共に併せてこれらの活動を通じて地域にしつかりと根を下ろし地域住民からも信頼される団体を目指し積極的に活動をして来たところである。国政選挙の結果が吉と出るのも先ず地方選挙を如何にまとめるかに掛かっており、またその原点が市議会議員選挙である事を肝に銘じた横須賀市議会議員選挙でもあった。

海自OB有志が大いに燃えた横須賀市議会議員選挙を振り返ってみたい。

2 潜群司令を退官した木下氏を支える会結成に向け、水交會有志七名から成るZグループが横須賀市内のとある店屋の2階に集まり打ち合わせを始めたのが昨年六月上旬であった。それから数回の打ち合わせを重ね後援会結成に向けての

青図が固まり、八月上旬の暑い最中北久里浜にある曹友会事務所2階に海自OB等の各団体の有志代表者多数が集まり後援会役員会が結成された。後援会会長には元潜水艦隊司令官であった幹候13期の西村義明氏が満場一致で推挙され、木下後援会が開始し大きなうねりとなって動き始めた。賛同する後援会会員も急速に増え始め、九月には有志の紹介で安浦町に立派な後援会事務所を開き活動にもさらに力が入り、明けて一月中旬後援会設立大会、三月中旬激励大会(総決起大会)を経て選挙戦に突入、四月二十二日投票日を迎える事となった。後援会長指導の下、活動には金を掛けず、違反事案を一切起こさず、自衛官らしく正々堂々と行動して行く事が最初の役員会で約され、選挙戦の終わるまで合言葉となって役員一同心を引き締めて来た戦いであった。

今回の選挙から横須賀市選管としては期日前投票、不在者投票の投票数を住所毎に区分けされる市内各投票所の投票数に再繰り入れの作業をしないと、事で自衛隊員の投票率の分析が出来ない状況であ

るが、過去の分析結果から見ると部隊各級指揮官はじめ前任伍長等の指導の下、投票率は100%近いものと推定される。

選挙結果はすでにご案内の通りであるが得票数四千六百四票で新人ではトップ、現職議員を含めた結果でも上位六位で当選する快挙であった。しかしこの結果は諸手を挙げて喜べるところであろうか、否である。

市在任の隊員その家族の総計は少なくとも一万人は超えるものと見積もられ、OBが立候補する今回のような選挙ではその得票数を現職隊員及びその家族に大きく期待したいところである。

選挙期間中の電話作戦等を通じたOBを始め後援会入会者からの獲得票は少なくとも二千六百票は固いと推計され、その結果現職隊員及びその家族からの票は多く見積もっても二千票に過ぎない事がわかる。現職隊員へのアプローチ、隊員一人一人から賛同を得る事が如何に難しく、労多くして功少なしと言った感を如実に物語っている状況である。

自衛隊員が入隊時の宣誓で政治的活動に参与せずとした文言で政治にアレルギー的となり精神的に縛られ、その結果選挙では自衛隊が草刈場と化している現状から脱皮し、自分たちの組織を深く理解し自衛隊のために政治的に大いに役に立つてくれる者に選挙権を行使するとした隊員の帰属意識の高揚が図れるよう我々としては支援して行かなければならないであろう。

後半戦の参議院選挙も残すところ一週間余りとなったが、国政の場に与党議員として自衛隊出身者が一人としていない現状は自衛隊の施策、隊員の処遇、予算面において極めて不利な政治状況であり自衛隊代表者を国政の場に送り一刻も早く現状を打破しなければならぬものと考ええる。

今回は陸上自衛隊出身の佐藤まさひさ氏が政治の道に踏み出す事となり、選挙活動を展開しているが市議会議員の選挙戦で培った団結力を遺憾なく発揮して佐藤まさひさ氏を強力に支援して国政の場に送り出そうではありませんか。



## 横須賀市議会便り

### 横須賀市議会議員

#### (横須賀水交會理事) 木下憲司

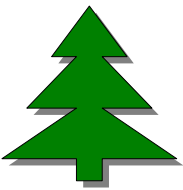
四月に行われました横須賀市議会議員選挙におきまして、初当選をさせていただきました。ご支援真にありがとうございました。皆様から託された思いを真摯に受けとめ、横須賀市のため、そして自衛隊のために精一杯働く所存です。

当面、安全保障分野における横須賀市の最大課題は、なんとといっても原子力空母配備問題です。今年二月に住民投票条例案は当然のことに否決されましたが、来年の配備までに反対勢力の動向は樂觀視はできない状況だと思います。そして、配備を前提とした議論の中でも、米海

軍との安全対策協議や防災協同訓練の立案などこれから解決すべき課題も多々あります。また、米軍再編特別措置法でいうところの再編交付金など次元の異なる問題もあります。

これらの諸問題の解決には①軍事実務としての絶対的安全性や効率の側面②市民目線としての心理的な安全・安心感の側面―のそれぞれに満足する答えが必要だと思います。特に、①と②が乖離する状況になると、市民は行政当局に対して不毛の不信感を持つこととなり、都合な結果となりかねません。誠実な説明努力と、その結果としての市民の啓蒙が重要だと考えています。

安全保障分野以外にも、横須賀市が抱える問題は多々あります。財政の問題、人口の減少、経済の活性化、少子高齢化、教育等々の各課題について、これからも、タイムリーに会員の皆様へ報告したいと思っっている次第です。



## 「教育基本法」に関する講演を聴講して

### 横須賀水交會理事 岩岡 光

長崎副会長から案内があつた藤岡信勝氏(拓殖大学教授)による『「教育基本法」と今後の課題』の講演が四月七日(土)に鎌倉生涯学習センターホールであり聴講しました。

本講演は鎌倉の教育を良くする会主催、鎌倉市教育委員会後援で開催されたもので同会による定期的な講演の一つでした。ただ教育委員会から「教科書問題には触れない条件」でとの制限が加えられていました。

講師は昭和十八年生まれで、北海道大学教育学部卒、同大学院博士課程単位取得後、東京大学教育学部教授(学校教育開発学コース)を経て現職、自由主義史観研究会代表及び新しい歴史教科書を作る会の中心的な執筆者でもあり、平成十七年度産経新聞正論大賞・受賞者です。

講演は新旧の教育基本法を対比して説明されて大変解り易いもの

でした。それに講師の私見を加えて教育現場の話もありました。以下講演の要旨等を記します。

旧教育基本法(昭和二十二年三月施行)から凡そ六十年後に改正法が可決(平成十八年十二月十四日)しました。

旧法は、占領下の昭和二十一年米国の「教育視察団の報告」を受けて制定されました。駐留軍の政策の一つは日本の無力化にあつて視察団の報告書はその意を受けたものでした。昭和三十一年に清瀬文相が「教育基本法の改正」に言及されてから、中曽根、森、小泉各首相の時代を経て安部内閣で漸く改正がなされました。

新旧の教育基本法の主な対比は次のとおりです。(産経新聞等から)

#### (前文)

(改正法)我々は、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する

(旧法) われらは、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、普遍的にしてしかも個性豊かな文化の創造を目指す教育を普及徹底しなければならない。

〔愛国心〕

(改正法) 伝統と文化を尊重し、それをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う(二条第5項)

(旧法) 規定なし

〔教育行政〕

(改正法) 教育は不当な支配に屈することなく、この法律及び他の法律の定めるところにより行われる(十六条)

(旧法) 教育は、不当な支配に屈することなく、国民全体に対し直接に責任を負って行われる(十条)

〔教育振興基本計画〕

(改正法) 教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、基本的な計画を定める(十七

条)

(旧法) 規定なし

この改正法の成立を受けて、文科省では教育内容や制度の抜本見直しに向け、学校教育法や地方教育行政法など関連の法案及び学習指導要領を整備していきます。教育の大きな改革の流れができたけれども、その実践についても、引き続き見守っていく必要があります。

旧法における大きな問題の一つが教育行政における「不当な支配」という言葉の解釈でした。これは宗像誠也氏の「内的事項・外的事項区分論」に基づくもので、行政は内的事項(例えば施設・設備など)には行政権の統制が及ぶが外的事項(教育内容や方法)には統制が加えられてはならないとする考え方です。これが日教組などによって解釈の拠り所とされ、つまり教育現場への行政権の支配を不当とする考え方へ繋がっていききました。その結果が、必修単位を修得させない学校の続出や、国旗・国歌に対し起立しない教師の存在などであります。こんな先生に教えられた生徒は当然そ

の影響を受けて育つことになるでしょう。

改正法では、「この法律及び他の法律の定めるところにより行われる」となります。

また最近「ゆとり教育」の弊害が保護者を含めて問題視されています。ゆとり教育は、詰め込み教育ではなく、問題解決的な発想が拡大し、基礎的なものをもっともしつかりやらなければならぬ時期に授業時間を減少させたのです。

ある資料では小学校6年間の主要4科目(国語、算数、社会、理科)の授業時間が昭和四十三年の三千九百四十一時間から、平成十年では二千九百四十一時間と千時間の減少となつています。また中学では昭和四十四年(ゆとり以前の公立中学校)で二千二百四十時間であったのが、平成十四年(ゆとり頂点)で千五百六十五時間と約四十三パーセント減少しています。これに対して平成十四年の私立中学校は二千三百八十時間とゆとり以前の授業を実施しています。これでは私立の学校を目指そうとするのは当然のことかと思えます。

義務教育で重要なことは、一に国語、二に国語、三、四が無くて五に算数というのが基本です。国語でも「読む、書く、聞く、話す」の中でも重要なのは「読む」です。戦前の教育を受けた方の遺書などをみると実に立派な文章が書かれています。

ゆとり教育の弊害はいろいろありますが、最も怖いことは、子供に「努力しなくても良い」という思いを教えたことです。これを修正するには長い時間を要するでしょう。

ゆとり教育が出来る前の教育では、たとえ共産党員である先生でも優秀であり生徒の学力も高く維持されてきました。

それで今の教育で教師、生徒、父兄の何処に問題があるかと言うと、平均的に観て、教師も生徒も昔と変わりありません。一番の問題は、学校教育にかかわる父兄です。先生方は、この対応に大変神経を使い苦労しています。

以上が講演の要旨ですが、半世紀以上も続いた日本の教育制度が今後改善されることは大いに期待できますが、「車は急には止まれない」

の標語もあり、あるべき姿に早く戻れるように日本の将来を左右する教育問題に今後とも関心を持ち続けて行きたいとおもいます。

### 潜水艦せとしお

#### 横須賀初入港を歓迎

潜水艦「せとしお」(艦長 井口郁丸2佐)が三月二十二日(木)一〇〇〇横須賀港に初入港した。



「せとしお」は「おやしお」型潜水艦の十番艦として三菱重工業神戸工場で建造され、本年二月二十八日に就役し、同日、第2潜水隊群第

4潜水隊に編入された最新鋭艦である。就役後、慣熟訓練を実施していたが、この度、横須賀音楽隊が歓迎演奏をする中、横須賀地方総監、潜水艦隊司令官等各級指揮官、隊員、蒲谷横須賀市長、各協力団体等多くの出迎えを受け、母港である横須賀港に初入港したものである。

横須賀水交會も会長以下多数の

会員が水交會の旗を掲げ歓迎した。

入港後Y-2岸壁で歓迎行事が行われ、横須賀市民を代表して横須賀市長から「重要な役割を持った

「せとしお」の入港を心から歓迎するとともに、「せとしお」の活躍を期待している。」と歓迎挨拶があった。その後艦長及び乗員代表に花束が贈呈され、引き続き井口艦長からお礼の挨拶があり、入港歓迎行事は終了した。

「せとしお」乗員のきびきびとした動きが目立ち、慣熟訓練の成果が感じられる初入港であった。

なお、第4潜水隊は「せとしお」編入をもって四隻編成となった。

(上田理事記)

### 練習艦隊 横須賀入港を歓迎

四月四日(水)、桜ほころぶ陽春のなか練習艦隊(司令官 松下泰士海将補 練習艦かしま、護衛艦さわぎり、練習艦しまゆき)が横須賀に入港した。



三月二十一日幹部候補生学校第57期一般幹部候補生課程を修業した初任幹部である実習幹部百七十三名を乗艦させ、江田島発神戸、鳥羽及び大湊に寄港した後、近海練習航海最終寄港地として横須賀に入港したものであり、四月二十日、東京晴海を出港、約五か月の環太平洋

方面(米国、エルサルバドル、チリ、ペルー、メキシコ、タヒチ、ニュージーランド、豪州、マレーシア、韓国)の十か国、十二寄港地)を巡る遠洋航海に臨む。

横須賀音楽隊の歓迎吹奏のなか、横須賀地方総監荒川海将はじめ各級指揮官、隊員及び地元横須賀市長、水交會等多数の人が出迎えた。水交会旗、自衛艦旗小旗を掲げるなか、市長歓迎の辞、市長及び横須賀水交會会長等から各代表への花束贈呈、司令官のあいさつ等で心のこもった入港歓迎行事であった。

同日、横須賀市、横須賀防衛協会、横須賀地方総監部共催で練習艦隊の壮行会が実施され、横須賀水交會からも多数の会員が参加し、盛大に壮途を祝した。

壮行会に引き続き、司令官はじめ各級指揮官・先任伍長等を招待して横須賀水交會主催の歓迎夕食会を実施、練習艦隊の横須賀入港を歓迎すると共に鹿島立ちを祝し、和やかな懇談が行われた。

実習幹部にはオーシャンマインドを涵養し、21世紀の海上自衛隊を担うとの気概を持ち、視野を広げ

心身ともにたくましく、国際感覚溢れるプロフェッショナルな幹部自衛官に育ってもらいたいものである。練習艦隊に栄光あれ！

(本多理事記)

### 馬門山墓地墓前祭

五月十九日(土)午前九時三〇分～十時の間、第五十二回馬門山墓地墓前祭が、横須賀市営馬門山墓地(旧海軍墓地 横須賀市根岸町)において実施された。

墓前祭には、遺族関係者を始め横須賀市長代理 上田副市長、山口市議会議長、横須賀地方総監部小澤幕僚長及び各艦隊幕僚長等、主催六団体(横須賀水交會、隊友会横須賀支部、大津観光協会、大津地区社会福祉協議会、晨洋会、大津地区連合町内会)の会員並びに一般市民等約二百四十名が参加した。

主幹事は六団体が毎年持回りで務めており、今年は隊友会横須賀支部が担当した。また、横須賀水交會からは、佃会長等約十五名が参加した。

次第は、一同拝礼、国歌斉唱、追

悼の言葉(小田倉隊友会横須賀支部長、上田副市長)、儀仗隊拝礼、献花、弔銃発射、最後に黙とうを捧げた。



当墓地には、軍艦「河内」、「筑波」の殉難者を始め、先の大戦の戦死者等千五百九十二柱の英霊のほか一般市民も埋葬されている。

事後の主催六団体の決算報告会においては、参加者数も最近では最も多く、円滑に実施できたとの所見であった。特に今年から、会場までの勾配の急な坂道に、高齢者の介添え役として女性自衛官の支援があり、とても爽やかな印象を与えたとの所見が多かった。(隈元理事記)

霧が出たら幹事が責任とります！

### 第十四回横須賀水交會主催 ゴルフコンペ

ゴルフコンペ

新緑の香が嬉しい五月、第十四回横須賀水交會主催ゴルフコンペが二十三日(水)千葉県内のザ・鹿野山カントリークラブにおいて開催され、佃会長以下三十六名の同好者が集いました。

ゴールデンウィーク明けの一段落した時期とは言いながら、今大会実施日に前後して会員の皆さんは北へ南へとスケジュールが立て込んでいたようで「残念ながら参加できず：」という方が予想以上に多く、いつもに比べてやや参加者の少ない大会となりましたが、参加された皆さんの意気込みは合いも変わらずでした。当日は透き通るような青空がまぶしいくらい的好天にも恵まれ快適な一日でしたが、「こりやあくスコアが悪くても天気の良いにはできないなあ！」と予防線もしつかりと張られていました。

競技は白鳥、天神コースから2グループに分かれてスタートし、ダブ

ルペリア方式で実施した競技は「優勝・小山 力さん、準優勝・平賀源太郎さん、3位・沢田欣也さん、ベストグロス賞(ジュニア)・小山 力さん、(シニア)・近藤義美さん」という結果でした。小山さんはグロス76、平賀さんはグロス79というレベルの高い内容であり、「二人とも仕事をしていないな？」などの声もチラホラと……。





優勝された小山さんは十数年ぶりにアイアンセットを新調された結果でしたが、今回の結果を見る限りでは今後も大いなる脅威となりそうです。優勝者スピーチで「この時期の鹿野山は霧が多いため幹事は大会の都度天候を気にしてきましたが、幹事が交代した途端に好天に恵まれ何と言って良いやら？」というコメントが印象的でした。(遅ればせながら前幹事的小山さん、お疲れ様でした。)

競技は好天にも助けられ順調に進行し、参加された皆様はそれぞれのゴルフを楽しまれたようでしたが、時々隣のホール(?)から聞こえる大きな声でそのプレー内容を想像できるシーンも相変わらずでした。

今大会の使用ゴルフ場として「ザ・鹿野山CC」を選定するに当たって、春先には霧が出やすいという不安要素がありました。サービスマ等の諸条件を勘案し決定しました。関係各位から霧に対する心配をいただきましたが、常務理事会場の場「大丈夫です。もし霧が出たら幹事としての責任をとって辞任しま

す。」として了承をいただいたという経緯もあって、とりあえずは一安心といったところでしたが、作戦成功とは言いがたく複雑な心境でした。

今回の第十五回大会は十月二十四日(水)にザ・鹿野山CCで開催することとし、九月上旬には案内を差し上げる予定です。皆様の参加をお待ちしております。

なお、新たな参加希望者に関する情報、及びメールアドレスを変更された場合は一報いただけると幸いです。(新田理事記)

### 海軍の碑記念行事

五月二十七日(日)午前十二時～十二時二十分の間、平成十九年度海軍の碑記念行事を厳粛に執り行った。

当行事は平成七年にJR横須賀駅近くのヴェルニー公園内に海軍の碑が建立されて以来、毎年実施されているものであり、今年は約二十五名の水交会会員等の参加を得て実施した。

行事は、テープによるラッパ「君が代」により国旗・自衛艦旗を掲揚後、海軍戦没者の英霊に対し一分間の黙とうを捧げた。



会長長の挨拶に続き、当該碑の建立委員長として尽力された常廣元横総監にあいさつをお願いしたところ、日露戦争時の特攻の話聞くことができた。鎮魂の譜「同期の桜」、「巡検ラッパ」、「海ゆかば」を聞いて、太平洋戦争で亡くなられた多くの人々を偲びつつ記念行事を終了した。

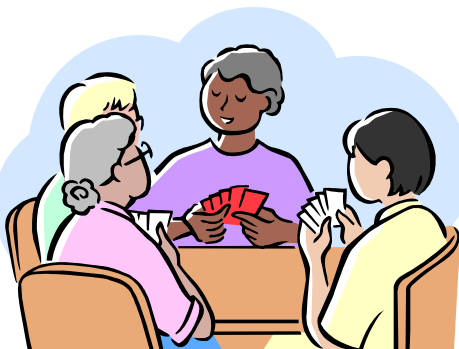
当日は好天に恵まれ、また、園内のバラが見頃の時期でもあり、園

### カード同好会員大募集!!

カードをしながらお喋りとお茶の楽しいひとときを過しませんか。

実施日：毎月第3水曜日午後  
 場所：総合福祉会館(汐入)  
 連絡先：満尾 哲郎 TEL 046-843-0506  
 岩岡 光 TEL 045-788-5313

内を散策する家族連れも多く、当行事を遠巻きに眺める姿も見られた。(限元理事記)



### ハーモニカ同好会を

#### 立上げませんか!!

十五名を越える方が集まるようでしたらハーモニカの同好会活動を開始したいと思います。会勢が整うまでは、日本ハーモニカクラブ会員、全日本ハーモニカ連盟幹事の後藤会員が御世話いたします。会勢が整い次第部外の講師を招請したいと考えております。

練習は月2回(集まられた方と相談の上日時を決定)、汐入(総合福祉会館)または逸見(生涯学習センター)での練習を考慮しております。

ハーモニカは当面ハ長調(C)及び変ニ長調(C#)が必要ですが一本あたり税込み四千二百円のところ相当の値引きをして貰えます。会費は当面、教室使用料を均等割した額に楽譜等代を加えた額です。

(五百円ぐらい?)ハーモニカを吹きたい方は奥様はじめ知人をお誘いあわせて御参加下さい。お待ちしております。参加希望の方は046・849・1954(後藤)まで御連絡下さい。

(後藤会員記)

### 水交會社屋更新募金のお願い

平成三十一年までに水交會本部社屋を更新するための募金について、(財)水交會会長からの趣意書がお手元に届いていると存じます。

横須賀水交會会員の募金状況は五月末で約四十二パーセントと全国の支部の中ではかなり良い状況にあるとのことですが、未だ醸金を済まされていない会員各位におかれましては、趣意書をご確認の上、ご理解とご協力をいただきたく重ねてお願いいたします。

### 春の叙勲受賞者

四月二十九日次の六名の会員の方々が叙勲を受けられました。

- 瑞宝中綬章 矢崎 徹
- 瑞宝小綬章 秋沢 巖
- 同 阿部永一
- 同 宮崎誠一
- 瑞宝双光章 手塚俊雄
- 同 河村 忠

(初谷副会長記)

### 訃報

本年三月以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略)

- 林 靖雅(海兵73) 三月二十一日
- 山本明夫(海兵76) 四月二十八日
- 島本勇和(幹候16) 五月十三日
- 小泉順一(幹候04) 六月 二日

(初谷副会長記)

### 新(編)入会員(三月〜五月)

次の方々が横須賀水交會に新たに入会(編入)されました。

- 小川 一男(有志) 田村 稔(横教19)
- 荒井 孝司(横教18) 高木謙次(有志)
- 下里 剛史(有志) 久保田トク(有志)
- 斎藤 秀人(有志) 勝又良一(特年兵03)
- 藤井 明(幹候(医)15) 岩永 則幸(幹候24)
- 矢野 圭吾(幹候20) 梅田 令一(有志)
- 安野 憲治(有志) 根岸 光春(部内16)
- 前中 武志(有志) 片岡 亨(有志)
- 村田 和吉(航学23)

(河村理事記)

### 「つづのくじら館」開館

四月五日、海上自衛隊呉史料館「てつのくじら館」(地上3階建)が大和ミュージアムに隣接した呉市宝町に開館した。潜水艦と掃海艇をテーマとしており、退役した潜水艦「あきしお」の陸上展示が目玉となっている。



### 編集後記

三月以降、定期総会や横須賀市議選挙を始めとして行事等が集中したこともあり、多くの記事等を寄せていただき、内容の充実を図ることができました。今後とも積極的な投稿等をお願いいたします。会員各位の近況紹介は、別様の付録として見ましたが、いかがでしょうか。今回、近況等の通知をいただけなかった方も、次回は是非よろしくお願いいたします。

(田口理事記)